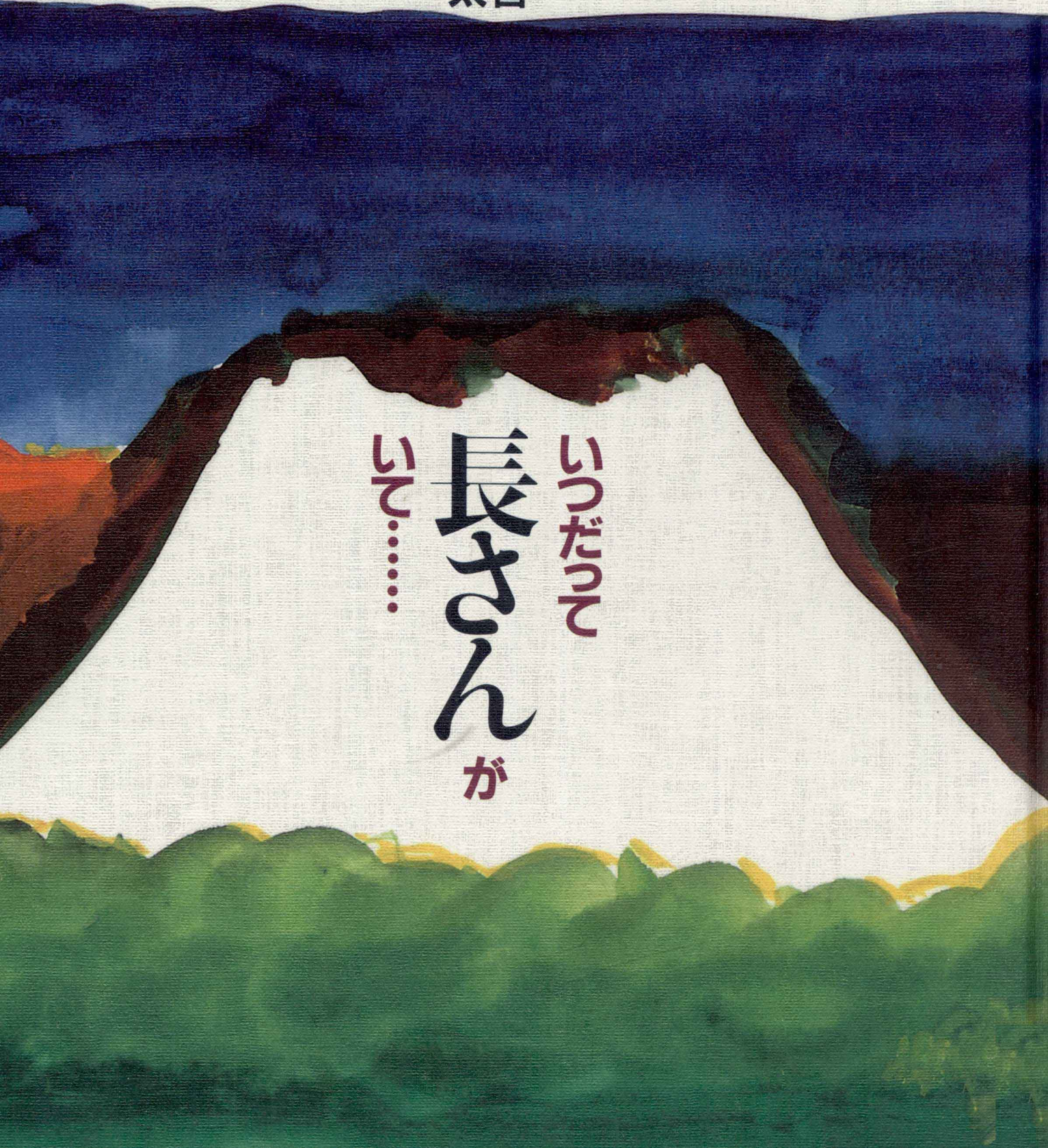
今江祥智 文
長新太 絵



いつだって長さんがいて……

今江祥智 いまえよしとも

1932年大阪生まれ。同志社大学文学部英文科卒業。編集者を経て、絵本、童話、小説、エッセイ、評論、翻訳など多岐にわたって活躍している。『ぼんぼん』(理論社)で日本児童文学者協会賞、『兄貴』(理論社)で野間児童文芸賞、『でんでんだいこいのち』(絵／片山健　童心社)で小学館児童出版文化賞、『いろはにほへと』(絵／長谷川義史　BL出版)で日本絵本賞を受賞。ほかの作品に絵本『あのこ』(絵／宇野亜喜良　理論社)、『なんでんねん天満はん』(絵／長新太　童心社)、小説『袂のなかで』(マガジンハウス)、エッセイ『私の寄港地』(原生林)など多数。

長新太 ちょうしんた

1927年東京生まれ。漫画家としてスタートし、絵本、挿絵、イラストレーション、童話、エッセイなど幅広いジャンルで活躍。『おしゃべりなたまごやき』(作／寺村輝夫　福音館書店)で文藝春秋漫画賞、『はるですよ ふくろうおばさん』(講談社)で講談社出版文化賞、『ヘンテコどうぶつ日記』(理論社)で路傍の石幼少年文学賞、『ゴムあたまポンたろう』(童心社)で日本絵本賞など、受賞多数。ほかの作品に、『キャベツくん』(文研出版)、『ごろごろにゃーん』(福音館書店)、『絵本画家の日記』(BL出版)など多数。2005年逝去。

●本作品は「飛ぶ教室・復刊特別号/春/2005」(光村図書出版)に掲載されたものに、あらたに絵を3枚加え加筆し単行本にしました。

いつだって長さんがいて……
2006年11月1日 第1刷発行

文　今江祥智

絵　長新太

装幀　杉浦範茂

発行者　工藤俊彰

発行所　BL出版株式会社
〒650-0015
神戸市中央区多聞通2-4-4
電話 078-351-5351
http://www.blg.co.jp/blp

印刷　丸山印刷株式会社

製本　株式会社 オービービー

Text copyright c 2006 by Imae Yoshitomo
Illustrations copyright c 2006 by Cho shinta
ISBN4-7764-0198-3 C8793 Printed in Japan

協力──撮影・松尾稔

1

その日。東京では雪がモカモカふっていたのに、長さんちに入ると目の前はお花畑。その上では奴凧(やっこだこ)がうなりをあげている。口もきけずに見惚(ほ)れていると、

—それは絵なのよ。

と、長さん。おどろいて見直すと、絵になっている。

—よければ、さしあげますよ。

—いただきまーす。

夢の中でも歩くように持ち帰る。部屋中に花の香がひろがる。奴さんは舞いながらブンブンブンと歌う。冬なのに上天(じょう)気。

ふと見ると——奴さんの顔が長さんになっている。ブンブンブーン……と長さんが歌っていた。

江苏工业学院图书馆
藏书章

Shinta cho

2

あの日。飴細工（あめざいく）やさんの前に立ち、次から次と注文していた。

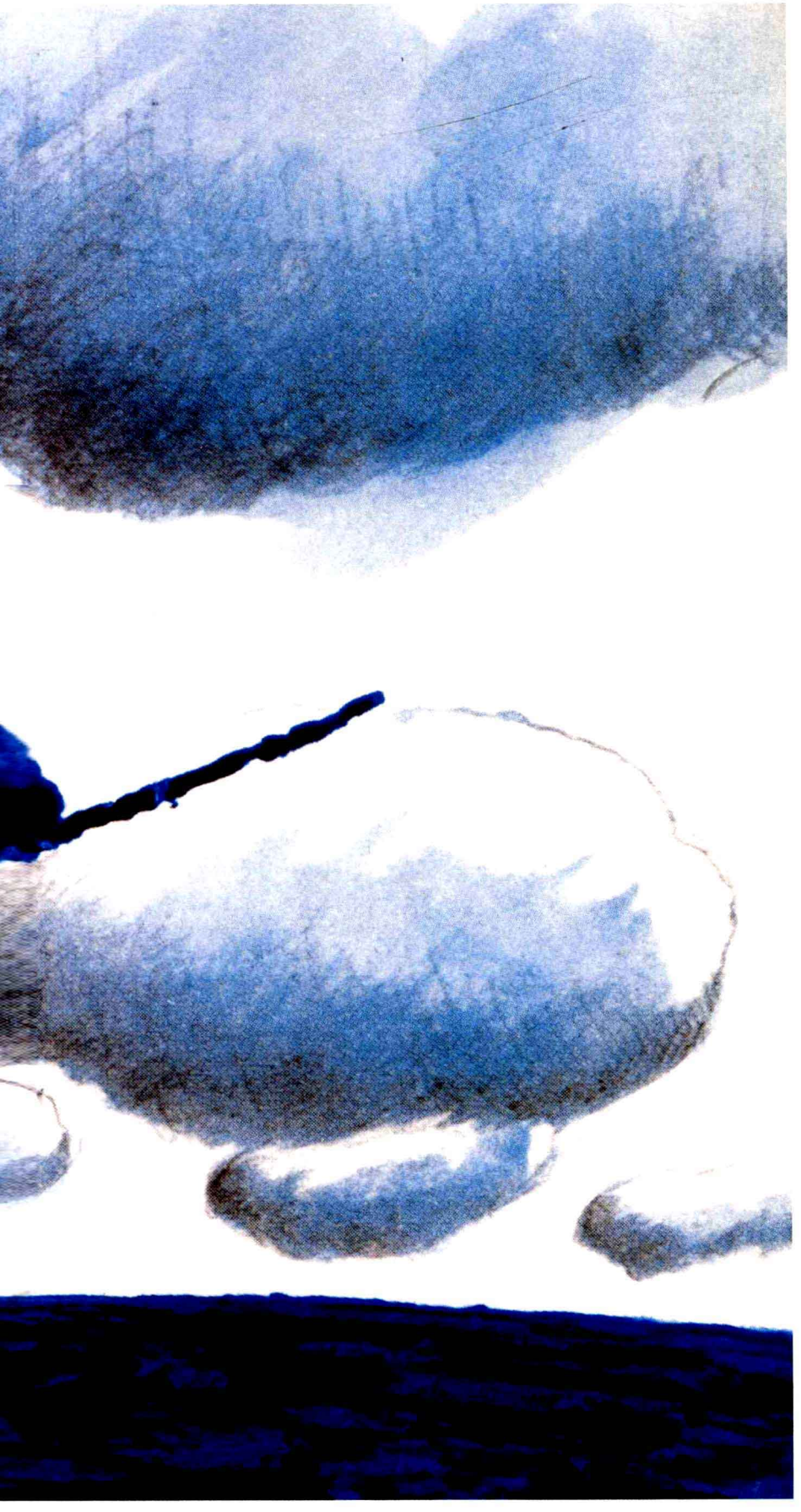
—ひまわり。するめ。オットセイ。オムライス。飛行塔。鶴。吊革（つりかわ）。高杉晋作。スーパーマン。ころしや。打上げ花火。イヴ・モンタン……。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

飴細工やさんは手早く何でもつくる。どれもこれもが文句のつけようもない出来ばえだ。

目の前につみ上げられた飴細工が、みんなでこちらを見ている。おずおずと見返す。みんなのうしろで――

飴細工やさんが長さんの目になると、そっと笑った。



3

ときには。長さんの絵は海のようにひろがる。夜のように深くつめたくゆったりしていて、どこまでも青い。

その上を麦わら帽子になって飛んでいた。いつのまにやらチョウさんがいっしょに飛んでいる。チョウさんは帽子にとまっているのやら、帽子をはこんでくれているのやら……。

—下にひろがってるのが長さん。

チョウさんがささやく。やっぱりそうか……。

あらためて、波立つ長さんを見はるかす。

人さまの上を飛んだりしてごめん下さい……。帽子をとってごあいさつすると、海は大きな目になって、ふーんわりとまたたいた。

4

—あやまらなくったっていいのよ。

海の中からくぐもった声がして、大男が、ののののの、のーんと立ちあがってくる。それが、口もないのに長さんの声でいう。

—どこで誰が見てるかわかんないから、いつも100点の仕事しないとね、できればァ。

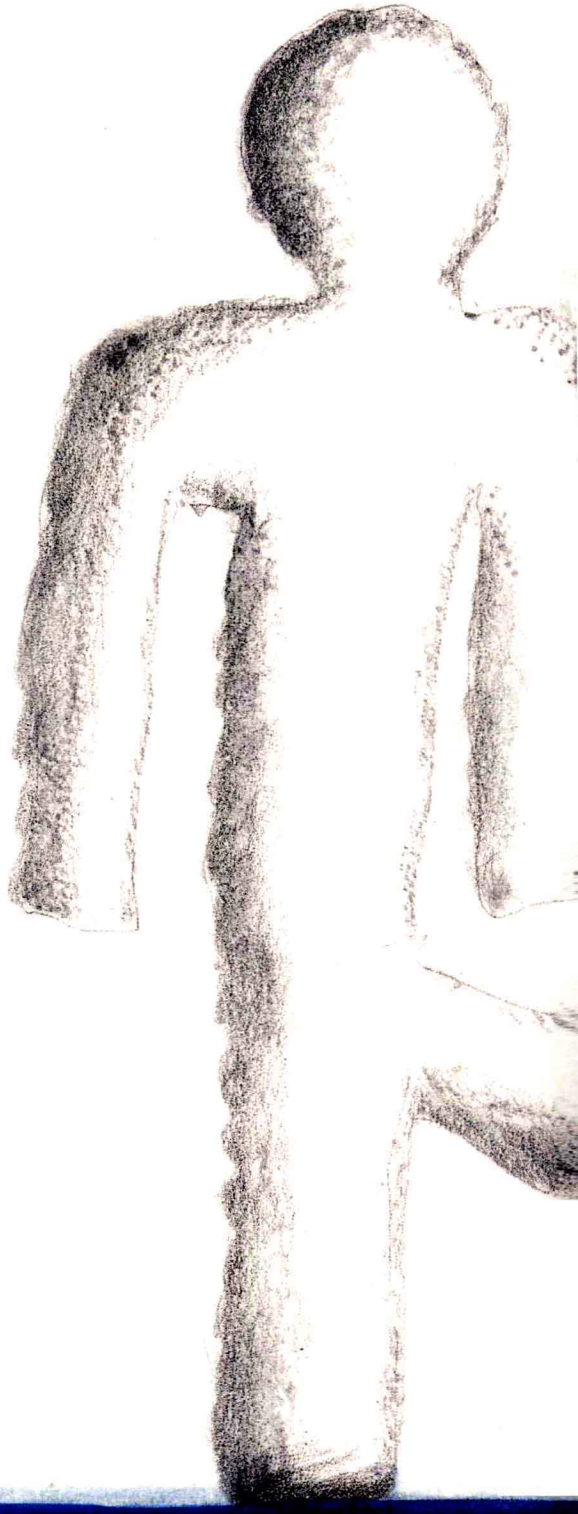
—は、はいっ。

—まぁ、たーいへんだけどー。

声がのんびりとまのびしていくにつれ、大男は背のびし、うすーくなり、すーんなり空にとけていった。

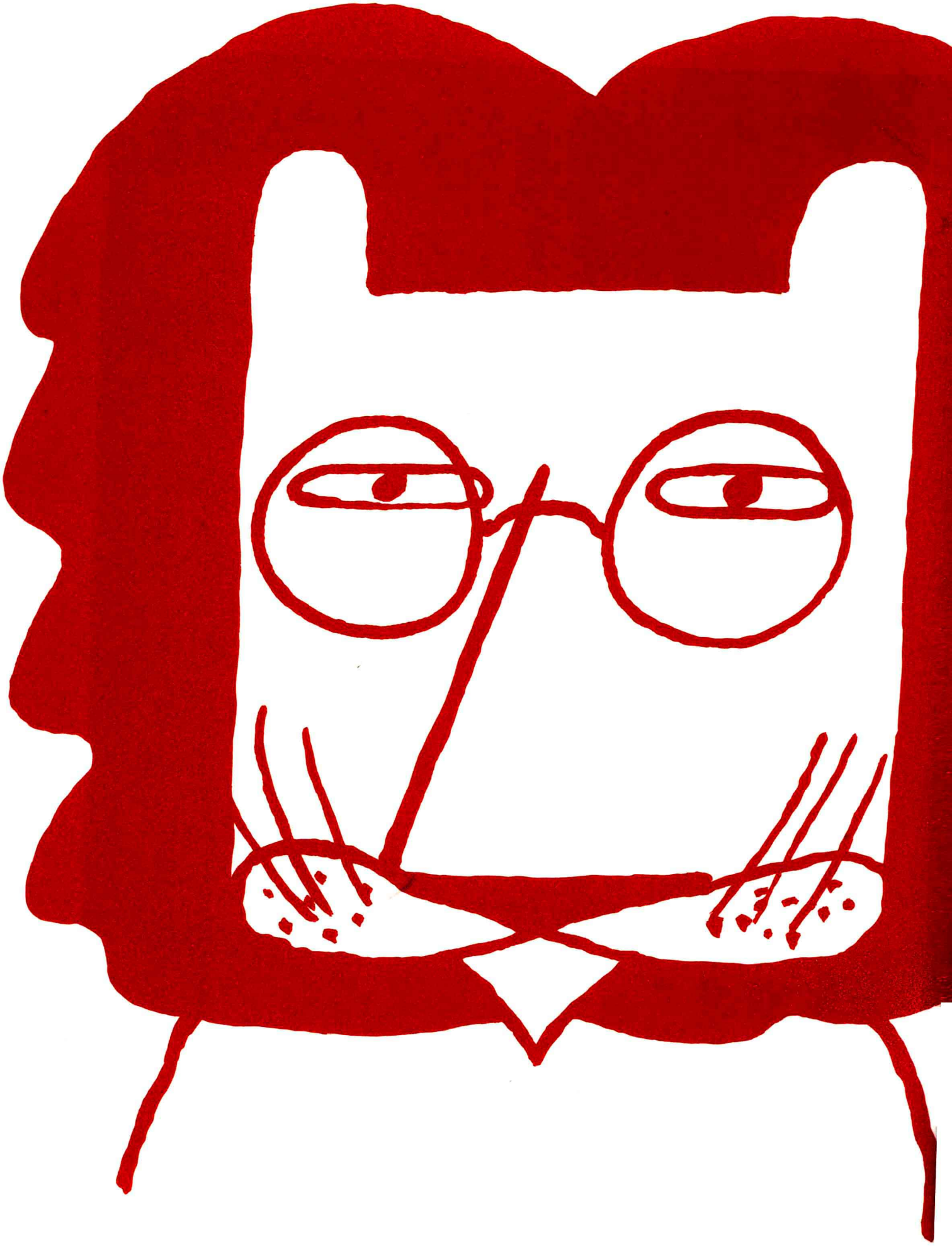
—いつだって100点だってェ。

空にむかって小さくうめいていた。



—おや。しばらくぶりよね。
いきなりライオンに声をかけられ、どぎまぎしながらふりむくと、その目におぼえがあった。
（飴細工やさんだ）
—三年ぶりかしらね。
（だったら……長さんだ）
—どーしてましたー？
—……あのゥ。ずっと100点の仕事ばかりとはいかなくてェ……。
—あれれ。そんなむりなこといったっけ？
（いいましたよォ）といいかえすより、ほっとしていた。ライオンは小さくせきばらい、
（なわばりでも見回ってこようっと……）
と、でかけてった。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com



そこにずっといる三びきのライオンのこ。泣きむしに笑いむし、おこりんぼってとこは、かわらない。

ライオンは、そこでひょいと長さんの顔にもどって――

―こんなのもなわばりにいるのよ。

と、ブルドッグをさしだす。

―……！

―もう半年になるかねェ。見かけだおしで気が弱くって。なわばりに合わないので、これから返しにいこうと思って……。

―犬やさん、承知するかなあ。

長さんは立ちあがると、赤い顔のライオンにもどって、出ていった。

（あれじゃ、犬やさんだって承知するだろな……。）

長さんの腕の中で、ブルがクスンと笑った……。

7

車窓のむこうをヒマワリが走る。
走る車中に長さんとブル。ブルがブツブツいってる――おや、きいたことあるもんくだぞ……。
〈こんなことってあるかしら？　だれもしらない大ニュース。やまがあるいたよ。ごろごろごろ。あるけあるけ。つみつみニャー。
てなわけで。みんなでつくっちゃっ

た。ちへいせんのみえるところ。ながいながいすべりだい。にゅーっするするする。みんなびっくり。ごろごろにゃーん。にゃあーにゃあー。

ナンナノヨナンナノヨ。ああおどろいた。そよそよとかぜがふいている。あしたてんきになーれ……〉

（どれも長さんの絵本のタイトル——ではありましぇんか。ブルったら、もう！）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com